

本県における各景観が占める面積の比率は、丘陵地景観が46%とほぼ半数を占め、次いで、田園景観19%、山岳景観18%、海崖景観4%、都市景観3%、その他が9%以下となっている。

本県の大半の地域は景観充実度「6」以上の指数を示しているが、これは丘陵地景観が広範囲にわたっていること、山岳景観、海崖景観、多島海景観など充実度の高い地域が全体の25%を占めていることによる。

### 第3節 自然環境質の指数化

#### 1. 調査区分の設定

県内全地域における自然環境の現状を客観的には握するために、定形的な広がり単位における現状を指数化することとし、当該広がり単位として、メッシュ区分を用いることとした。

メッシュ区分は、その規模を適正にとることによって、できるだけ容易に正しく現状をは握することが可能であり、その地域の保護・保全や開発行為などが生じた場合の対策などに対しても、容易に対応することができる。

本計画においては、メッシュの大きさを決めるに当たっては、①自然環境のそれぞれ質の異なる分布が平均されることによって、その区域の特徴が損われない規模であること。②自然環境を構成している動植物の生態系の維持がある程度図られる規模であること。③開発行為や保護・保全が計画される区域においては、その行為が周辺の環境の変化に影響を及ぼすことが少ない規模であること、などに留意して行うこととした。

すなわち、メッシュの規模を小さくすれば同質の自然環境質からなる割合が多くなるため、評価値は現状に近いものとなるが、一方、広い範囲、例えば、市町村区域等による規模にすれば評価の高い地域と低い地域が、平均化されることによって、その評価は全く意味のない値となる。

このような観点から本計画においては、これらの問題を踏まえ、メッシュの規模は1平方キロメートル（100ヘクタール）を最も適当な大きさとした。

#### 2. 自然環境質指数

本計画においては、自然環境を構成する要素として、植物、動物及び景観の3項目としたが、それぞれの評価値をもとにメッシュごとの植物自然充実度、動物自然充実度及び自然景観充実度を算出し、これら3項目の充実度から自然環境質指数を算定した。

##### (1) 植物自然充実度

2万5千分の1の植生図  
値評価を行うため、環境庁  
の評価を行った。さらに、  
自然充実度を算出した。

例えば、コナラ林（評価  
点）20ヘクタールのメッシ  
植物自然充実度＝{コナ  
2点}

##### (2) 動物自然充実度

哺乳類、鳥類、昆虫類に  
その分布域など学術的な調査  
域の評価は、生息動物の評価  
確認されている区域の場合に  
一定でないことを考慮して、  
メッシュで囲まれた区域全体

##### (3) 自然景観充実度

地形、水、植物などから構成  
行い、遠望性などの視程、仰  
をもとに、山岳景観、山岳荒  
25の景観分類に10段階の評価  
た位置づけを行い、それぞれ  
た。

##### (4) 自然環境質指数

自然環境を構成する3要素  
えるものである。

動物の生息環境を左右する  
よるところが大きい。したが  
とし、動物自然充実度、自然  
もした。

$$S = P + \frac{1}{n} \{ (A - P) \}$$